

水稻の作柄に関する委員会（令和3年度第1回）の意見

1 気象の推移・予報等からみた作柄への影響

- (1) 7月上旬までの気温・日照時間は、6月下旬から7月上旬が日照不足であったものの、総じて平年を上回って推移し、特に7月中旬以降は高温・多照となった。

その後、8月上旬に台風に見舞われた地域があったほか、8月中旬以降には大雨に伴う低温、日照不足となった。

なお、9月中旬以降に予想される今後1か月程度の天候の見通しでは、気温については平年並み又は高い、日照時間については平年並み又は多いと予想されている。

- (2) 本年の水稻は、6月下旬から7月上旬の日照不足及び8月上旬の台風や8月中旬の大雨等に伴う低温、日照不足が穂数・もみ数等へ与える影響や、7月中旬から8月上旬の高温及び8月中旬からの低温、日照不足が登熟・品質等に与える影響が懸念される。

また、台風、大雨等による影響も懸念されるほか、いもち病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ類等の発生が多いと予想されている地域もある。

2 次回の調査に当たって留意すべき事項

- (1) 早場地帯や遅場地帯ごとの生育ステージの違いによって、6月下旬から7月上旬の日照不足及び8月上旬の台風、大雨等が穂数・もみ数等に与える影響を見極めるとともに、7月中旬から8月上旬の高温及び8月中旬からの低温、日照不足が登熟・品質等に与える影響について留意する必要がある。
- (2) 8月上旬の台風、中旬以降の大雨による冠水・倒伏等の被害が発生した地域では、登熟・品質等に与える影響を見極めるとともに、今後の台風や集中豪雨等による作柄への影響にも留意する必要がある。
- (3) いもち病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ類等の病虫害の発生が多いと予想される地域においては、その発生状況にも留意する必要がある。

【参考】水稻の作柄に関する委員会委員

(座長) 雨 宮 宏 司	公益財団法人日本特産農産物協会 理事長
荒 井 裕見子	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究部門 スマート育種基盤研究領域 オーダーメイド育種基盤グループ 上級研究員
大 川 泰一郎	国立大学法人東京農工大学大学院農学研究院 生物生産科学部門作物学教育研究分野 教授
萱 場 互 起	気象庁大気海洋部 気候情報課 異常気象情報センター 調査官
黒 田 栄 喜	国立大学法人岩手大学 名誉教授
山 岸 順 子	元国立大学法人東京大学大学院教授
吉 永 悟 志	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中日本農業研究センター 転換畑研究領域 領域長